

12/26
朝日

「我が軍」の危険と応募者減

無職

(兵庫県 80)

我が家のポストに今夏、防衛省

による自衛隊員募集のチラシが入った。四十数年住んでいるが隊員募集チラシは初めて。「夢 共感 貢献」とあり、その対象が老夫婦かと妙な感慨があった。高校3年生のいる家に同種の募集要項が届いているという報道もあった。

国会質疑で春、安倍晋三首相が自衛隊を「我が軍」と呼んだ。批判が広がり、4月の朝日歌壇でも「わが軍と呼びたる人の思考には戦ふ兵がすでにゐるらむ」と詠まれたが、9月には安全保障関連法が成立した。海外での自衛隊活動

を飛躍的に広げる裏付けができ、隊員増のために募集は欠かせないのだろう。

しかし高校新卒者らを中心に募集し、現場の中核を担う一般曹候補生の応募者数は昨年度より2割減という。企業の雇用改善が影響しているかもしれないが、私は自衛隊のリスクが大きくなるのが応募者減の最大の要因と思う。

安保法制下、自衛隊は戦争をしている他国軍を後方支援できるようになり、隊員は命の危険にさらされる。安倍首相は国会で「徴兵制の導入は全くあり得ない」とも答弁したが、今後も断言し続けられるのか。はなはだ心もとない。